

第5次 小菅村

総合計画

みんなで作る源流の輪 こすげ



令和4年3月
小菅村

はじめに

「小菅村のいいところってなんだろう？」

これは本計画策定のために行われたワークショップで出された質問です。ワークショップの写真を見たところ、参加したみなさんからはホワイトボードに貼り切れないくらいの「いいところ」が書かれた付箋が貼られていました。



みなさんにとって小菅村の「いいところ」は何でしょうか？

本村は、人口約700人のコンビニもない村で、いわゆる都会にある便利なサービスなどの「いいところ」の大半がありません。ですが、ワークショップの報告書を読むと、参加した村民のみなさんが、多くの「小菅村のいいところ」をあげてくださいました。それは、サービスという面ではなく、村民同士のつながりや自然の豊かさなどの「いいところ」が多かったことが印象に残っています。

このようなたくさんの「いいところ」がある小菅村を、先人から引き継いできた“源流のむらづくり”を大事にしながら、今後10年をどうやっていくかについて、この1年間、行政と村民のみなさんでさまざまな場で検討し、みなさんの想いを最大限に取り入れた計画を策定しました。この計画は村民のみなさんと一緒につくった計画です。ぜひ、みなさんも自分たちの計画であると思っただき、実行へのご協力をお願いいたします。

この先の未来は、現在が10年前に想像できなかったコロナ禍であるように、我々の想像しない困難が待ち受けているかもしれません。そんなときでもみなさんで考えたこの計画をもとに知恵を絞り、未来へとつなげていきましょう。

結びに、本計画の策定にあたり、慎重かつ熱心にご審議いただきました小菅村総合計画審議会の委員のみなさまをはじめ、むらづくりアンケートやワークショップで貴重なご提案やアイデアをくださった村民や各種団体のみなさま、また、パブリックコメントなどを通じて、ご意見をくださいましたみなさま、並びに関係各位に心から感謝申し上げます。

令和4年3月

小菅村長 船木直美

目 次

第1編 序論

第0章	みんなでつくるこれからの小菅村	3
第1章	総合計画策定の基本的な考え方	6
第2章	本村の特性	8
第3章	社会状況（本村を取り巻く状況）	10
第4章	村民の思い	12

第2編 基本構想

第1章	むらの将来像	19
第2章	分野別目標（むらづくりの方向性）	23

第3編 基本計画

第1章	重点プロジェクト	29
第2章	分野別施策	41
1	産業	46
2	教育・文化・スポーツ	52
3	保健・医療・福祉	58
4	環境保全・生活環境	64
5	むらづくり	72

第4編 参考資料

第5次小菅村総合計画審議会審議経過	79
第5次小菅村総合計画審議会委員名簿	79
諮問／答申	80

第1編

序論

第0章 みんなでつくるこれからの小菅村

第1章 総合計画策定の基本的な考え方

第2章 本村の特性

第3章 社会状況（本村を取り巻く状況）

第4章 村民の思い

第0章 みんなでつくるこれからの小菅村



このたび、これからの小菅村（以下、「本村」という。）をよりよくしていくための新たな総合計画「第5次小菅村総合計画」（以下、「本計画」という。）を策定いたしました。本計画は、さまざまな分野の方からご意見をいただきながら、村民のみなさんとともに作りあげた計画です。

村民のみなさんと本村のむらづくりについて考えていくなかで、村内の人だけでのむらづくりには限界があり、本村の特性やむらづくりへの想いに共感いただいたみなさんと**“みんなで一緒に源流のむらをつくっていききたい”**という共通の想いが生まれました。「源流」の持つ価値と役割を、多摩川流域をはじめとした村外の方々に発信することで共有し、共存共栄していきたいと考えています。

本計画は、これまでの「多摩川源流」を核としたむらづくりを引き継ぎ、実効性のある計画として、「みんなでつくる源流の輪 こすげ」の実現を目的とし、令和13年の目指すべきむらの姿をしっかりとイメージした上で、前期基本計画では今後5年間に取り組むことを具体的に示しました。

そのなかでも、特に重要な施策を「重点プロジェクト」とし、最優先で取り組んでいくこととしています。持続可能で自立したむらをつくるため、一緒に計画を進めていきましょう。

KOSUGE VILLAGE
源流のむらづくりへの想い

多摩川最初の一滴

“みんなで一緒に源流のむらをつくっていききたい”

そのために、本村内外すべての方に（できれば世界中の方に！）
本村の特性やむらづくりへの想いが少しでも伝わるように本計画は策定しました。

総合計画について詳しく知りたい方はコチラをどうぞ！

とりあえずパラパラ見たい方はp.6へ！

(1) むらづくりと総合計画

むらはそこに住む人や働く人など、さまざまな人たちによる、暮らしや活動の場です。そのむらをより暮らしやすく、活動しやすくしていくための取組がむらづくりです。

むらづくりには、清掃活動や防犯活動などから、子育て、教育、保健・医療・福祉、環境など、暮らしや活動を支えるもの、また道路や上下水道のようなむらの基盤を整備するものまで、さまざまな取組があります。これらの取組は、行政が主体となって行うもの、村民や事業者などが主体となって行うもの、また行政と村民、行政と事業者が一緒になって行うものなどがあります。

総合計画は、これからの10年間、本村をどんな「むら」にしていくのか、そのために誰が、どんなことをしていくのかということ、総合的・体系的にまとめたものです。また、本村の福祉や都市計画、環境など、すべての計画の基本となるもので、いわば、将来における本村のあるべき姿と進むべき方向を示した「道しるべ」だといえます。

これまで総合計画（基本構想）は、地方自治法で、議会の議決を経て策定することが義務づけられていました。しかし、地方分権に伴い法律が改正され、総合計画の策定はそれぞれの自治体の独自の判断に委ねられることになりました。

本村では、本計画の策定について、本村を取り巻く厳しい社会・経済環境のなか、将来をみすえたむらづくりを進めていくためには、本村の将来像を村内外すべての方に共有し、より計画的で効果的なむらづくりを行う必要があると判断しました。

そこで、新たな総合計画を策定することとしました。

総合計画は、これからの10年間、本村をどんな「むら」にしていくのか、そのために誰がどんなことをしていくのかという進むべき方向を示した、むらづくりの「道しるべ」です。



(2) みんなでつくる総合計画

新たな総合計画を策定するにあたって、本村ではその策定過程が大切であると考えました。村民のみなさんと一緒に本村の10年後のあるべき姿である「将来像」を描き、共有し、その実現に向けてみんなで一緒に取り組んでいく総合計画にしたいと考えました。

そこで、本計画策定に向けてさまざまな取組を行ってきました。令和3年7月には、村民を対象にした「新たな小菅村総合計画策定のためのむらづくりアンケート」を実施しました。また、区長、むらづくり関係団体、事業者、行政の職員にヒアリングを実施しました。8月には、村議会議員、村長へのインタビューを実施しました。また、楽しく本村やむらづくりについて考え話し合うとともに、協働のむらづくりの一環として、「むらづくりワークショップ」を開催しました。



これらの取組において、村民のみなさんからいただいた意見などをもとにして、計画案をまとめました。その後、10月から村民、むらづくり関係団体、村議会議員などで構成する小菅村総合計画審議会ですらに議論を深め、整理した内容を、パブリックコメント（意見公募）を実施した上で、本計画はまとめられました。

このような取組により「みんな」でつくった計画となっています。



みんなの想いがつまった計画です。
今まで読んだことがなかった方もぜひ読んでみてください。

第1章 総合計画策定の基本的な考え方

本計画は、本村の地域特性を活かして魅力あるむらづくりを進めるための総合的、計画的な村政運営の指針であり、具体的な計画や取組の土台となる本村の最上位計画です。本計画をもとにいろいろなむらづくりの計画や取組を企画、実行しましょう。



本村の未来に向けた取組をしっかりと進めます！

現在、本村では、過疎高齢化や自然災害などの課題解決に向けたドローン配送の実証実験をはじめ、気候変動の抑制に貢献する間伐材を用いた薪ボイラーの導入（CO₂排出に該当しない再生可能エネルギー、太陽光発電・蓄電池もあわせて導入）など、将来に向けた取組を進めています。その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会経済情勢や財政状況には、先行きが不透明な面もあります。

このような状況にあっても、持続可能で自立したむらをつくるため、本村の将来をしっかりとみすえた上で、本当に必要な施策を重点的に推進していきます。



村内で実験運用中のドローン

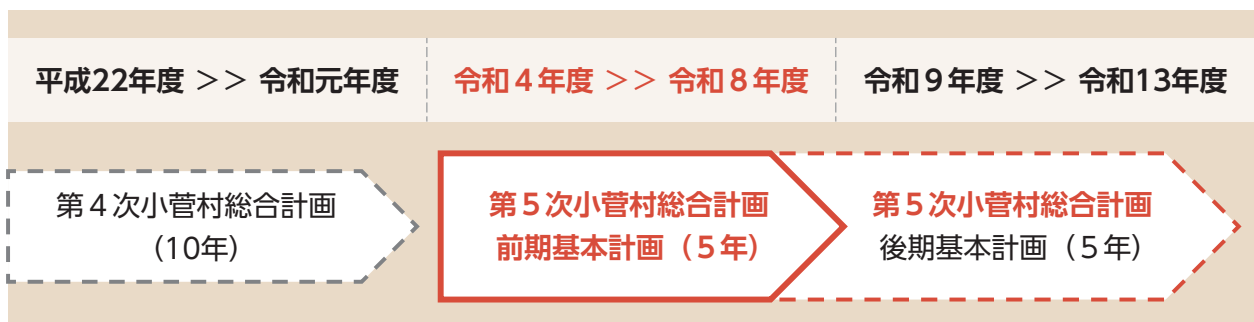


新たに導入した小管の湯薪ボイラー



実効性を重視した前期5年間の計画です！

本村の10年後（令和13年）をイメージした上で、急速に変化する時代に対応し、実効性を重視する観点から、前期基本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。





誰にでもわかりやすい計画としています！

村民のみなさんの声を聴きながら、構成や表現を簡潔明瞭にするとともに、写真やイラストを活用してわかりやすい計画としています。



村内外のみなさんとともに進めます！

本計画は、幅広い分野の委員で構成する「第5次小菅村総合計画審議会」のご意見をいただき策定しています。また、村民やむらづくり関係団体、事業者、小菅村ファンのみなさんと一体となって、国や県、多摩川流域をはじめとした他自治体ともしっかりと連携しながら、スピード感をもって着実に推進していきます。



村民・団体・事業者
小菅村ファンのみなさん



小菅村



国・県
他自治体



SDGsの理念に沿って推進します！

SDGs（持続可能な開発目標）の理念に沿って持続可能なむらづくりを進めるため、本計画に掲げる施策の分野ごとに、SDGsのどの目標に関連しているかを明示し、村民のみなさんと共有します。（詳しくはp.42）

SDGs（エスディージーズ）

[Sustainable Development Goals]

貧困、エネルギー、気候変動など、21世紀の世界が抱える社会・経済・環境面の課題を解決し、持続可能な形で発展していくため、国際社会が2030年までに達成を目指す17の目標。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第2章 本村の特性

「多摩川源流」をはじめとした唯一無二の豊かな自然

本村は、山梨県の東北部、大菩薩嶺の山岳地帯に位置し、東京都内を貫流する多摩川の源流部に位置しています。中心地域の標高は660mで、四方を1,300m～2,000mの高山で囲まれています。総面積は5,278haで、総面積の95%を森林が占めており、その約3割が東京都の水源かん養林となっています。

大菩薩嶺に源を発する多摩川水系の小菅川に7集落、鶴峠を越えた相模川水系の最上流の鶴川沿いに1集落が点在しており、都心から80km圏内にありながら、ミズナラやブナなどの原生林、大型哺乳類やさまざまな野鳥、昆虫から可憐な野の花まで、豊かな自然が残っています。

多摩川源流（源流体験）



小菅川（小菅フィッシングヴィレッジ）



白糸の滝



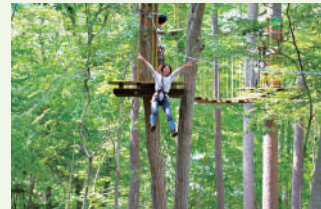
三ツ子山からの景色



大菩薩峠



フォレストアドベンチャー・こすげ



小菅村ならではの取組

本村は、令和4年1月1日現在、人口679人、高齢化率45.7%となっています。本村だからこそできる、村民の不安や不便を少しでも解消する取組や環境問題に対する取組を行っています。

物流専用ドローン／配送試験



薪ボイラー（再生可能エネルギー）



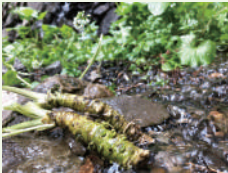
先祖から受け継いだ人情味と源流産業

山間にある本村の人々は、人とのつながりを大事にし、温かい心を大切にもちつづけながら、豊かな水を活用してさまざまな産業を育て、特産品を生み育ててきました。その代表的な存在が、わさびやこんにゃくの栽培、ヤマメ・イワナなどの養殖業です。わさびの生産量は県下1位を、養殖業では日本で初となるヤマメの人工養殖に成功した先進地として卓越した技術を誇っています。

また、平成6年には日帰り温泉施設「多摩源流・小菅の湯」がオープンし、年間8万人以上が利用しています。その後、「フォレストアドベンチャー・こすげ」、「道の駅こすげ」もオープンしました。さらに、空き家になった古民家をホテルに再生させる取組もはじまっています。

現在、多摩川源流大学が開校し、村民が講師となるなど、農林業体験や自然体験活動を推進し、本村の特性を活かした産業の創出を図っています。

わさび



多摩源流水



こんにゃく



ジャガイモ



ヤマメの養殖／ヤマメの塩焼き



しゃくし菜



そば



引き継がれる歴史・文化

平安時代の頃から、国の重要文化財である長作観音堂をはじめ、湧金山宝生寺、箭弓神社・山沢神社・八幡神社などが建立され、中央の文化が普及してきたことを物語っています。村内各地区で行われるお祭りのなかでも伝統芸能として古くから伝えられ、現在もつづけられているものに「三ヶ村の獅子舞」「橋立神楽」「小永田神代神楽」の3つがあります。

長作観音堂



多摩源流まつり



三ヶ村箭弓神社祭典／獅子舞



橋立八幡神社祭典／獅子舞・神楽



小永田熊野神社祭典／小永田神代神楽

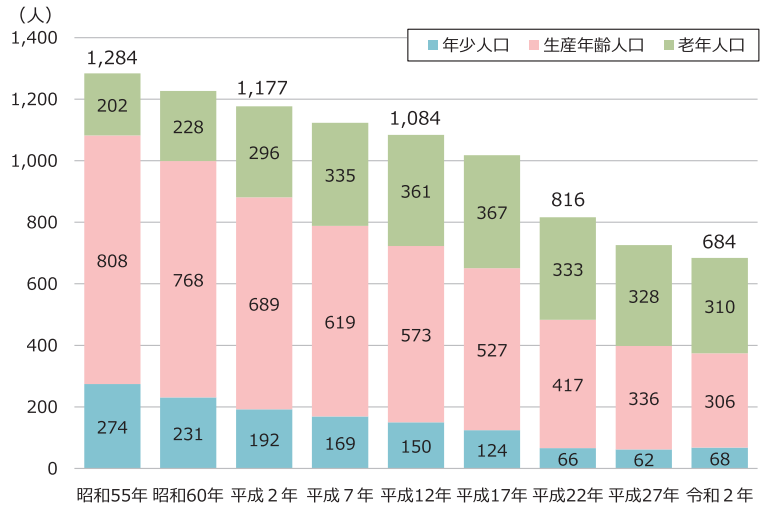


第3章 社会状況（本村を取り巻く状況）

少子超高齢化と人口減少の進行

わが国では、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいます。本村も例外ではなく、労働力の不足、社会保障費の増加、地域の活力低下など、さまざまな影響が懸念されています。

あらゆる世代がいいきと生活できるむらづくりを進めることが求められています。



出典：国勢調査

安全・安心に対する意識の高まり

近年、わが国では台風や局地的な集中豪雨による風水害をはじめ、地震などの災害が毎年のように発生しています。本村では豪雪災害も発生しており、あらゆる災害に対する備えを充実強化していかなければなりません。また、日常生活においても、若い命を脅かす痛ましい事故や高齢者を狙った犯罪などが全国で後を絶たず、誰もが安心して生活できる社会づくりが求められています。

一方、高度経済成長期に整備された公共施設や道路・橋などの社会インフラの老朽化が進んでおり、利用者の安全・安心を第一に、長寿命化や管理運営の効率化を進めていく必要があります。

さらに、新型コロナウイルス感染症により、私たちの日常生活は大きく変化しました。むらづくりにおいても、ウイルスと共生していくことをみすえた対応が求められています。



平成26年2月豪雪の様子



デジタル社会の実現

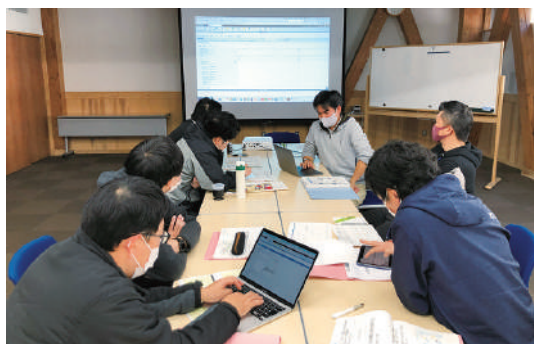
AI（人工知能）などの情報通信技術が急速に進展・普及しており、産業、医療、教育など、さまざまな分野での活用が期待されています。こうしたなか、新型コロナウイルス感染症への対応において行政のデジタル化の遅れが浮き彫りとなり、国を挙げてデジタル社会の実現に向けた改革が進められています。

村政においても、デジタル化を積極的に推進し、村民生活の利便性向上と効率的な行政運営につなげていく必要があります。

一方で、セキュリティの確保や個人情報の保護、デジタル弱者や高齢者への対策など「誰一人として取り残さない」デジタル化の実現に向けて、しっかりと対応していくことが求められています。



電子マネーの利用



DX推進会議の様子

多様性の尊重と共生社会

価値観やライフスタイルが多様化するとともに、一人ひとりの個性が尊重される社会への変化が進んでいます。

年代、性別、障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もが社会を構成する一員として、住み慣れた地域で安心して暮らせるむらづくりが求められています。



Far Yeast Brewing（ファーイーストブルーイング）の従業員

第4章 村民の思い

本計画の策定にあたり、むらづくりの評価や意向を把握するため、村民を対象にアンケートやワークショップを実施しました。

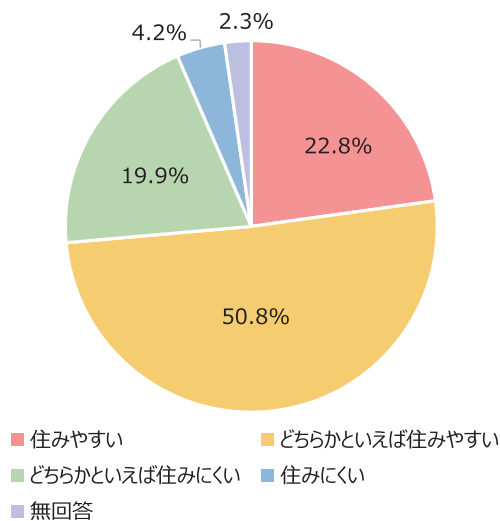
(1) むらづくりアンケートでの意見（一部抜粋）

本計画の策定にあたって、村民のみなさまの意見を反映するため、本村の住みやすさやその理由、魅力、今後むらづくりで取り組むべき項目などについて、令和3年7月に「新たな小菅村総合計画策定のためのむらづくりアンケート」を行いました。

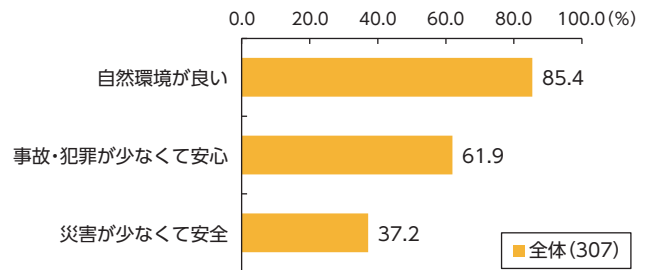
【調査時期】 令和3年7月 【調査対象】 16歳以上の小菅村住民（配布数：600件）
【調査方法】 郵送方式 【有効回収数（率）】 307件（51.2%）

住みやすさ

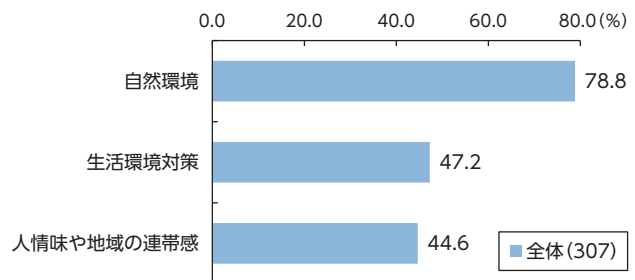
約7割（73.6%）が『住みやすい（合計）』と、住みやすさに対する評価は高くなっています。住みやすい理由としては、「自然環境が良い」「事故・犯罪が少なくて安心」「災害が少なくて安全」などがあげられています。



住みやすい理由（上位3項目）

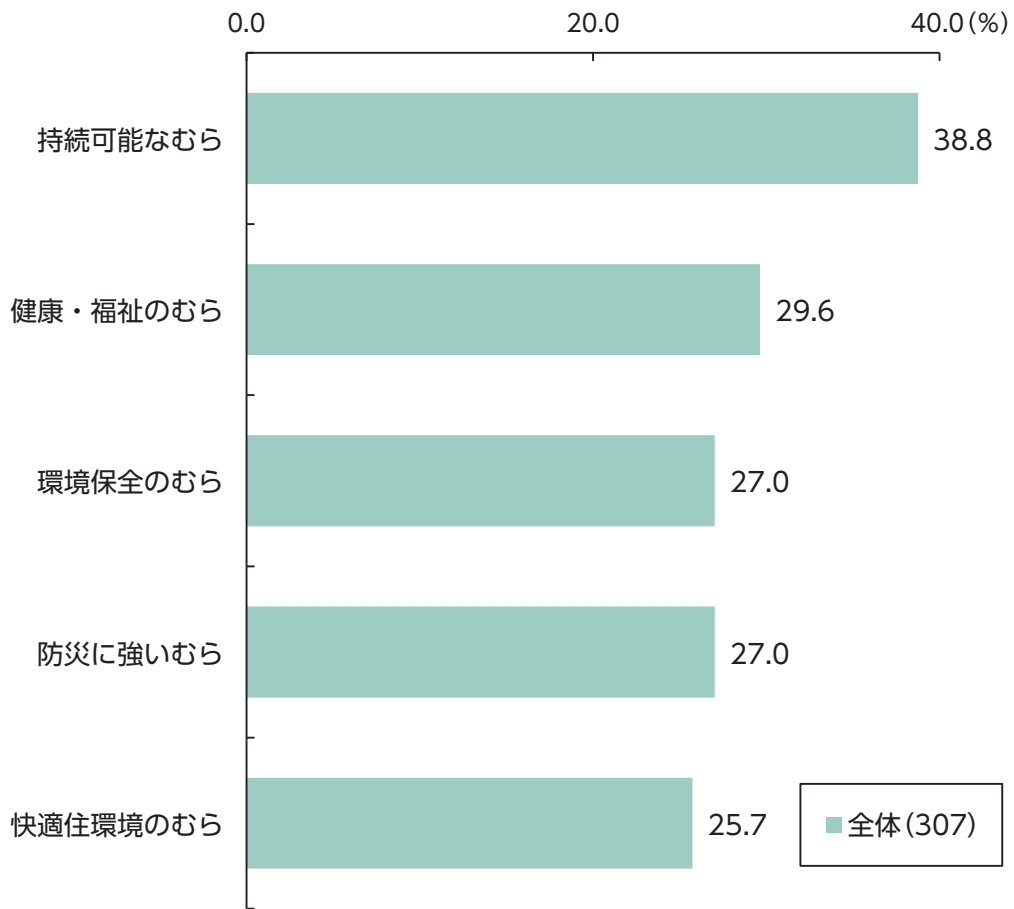


小菅村の魅力（上位3項目）



※「住みやすい理由」「小菅村の魅力」は、3つまでの回答を可能（複数回答）としているため、回答比率の合計が100%を超えています。また、グラフの選択肢は見やすさを考慮し、調査票の選択肢の文言を一部簡略化しています。

今後むらづくりで取り組むべき項目（上位5項目）



※「今後むらづくりで取り組むべき項目」は、3つまでの回答を可能（複数回答）としているため、回答比率の合計が100%を超えています。また、グラフの選択肢は見易さを考慮し、調査票の選択肢の文言を一部簡略化しています。



(2) むらづくりワークショップでの意見（一部抜粋）

← 至 柳沢峠・甲府・塩山駅方面

小菅のことや小菅の味を教えてくれる
おじいちゃんおばあちゃん

誰かに会える「つながるキッチン」

ランドマーク的存在の「体育館」
は村外の友達も注目！

大菩薩峠

白糸の滝

橋立

診療所

18

きぼうの館

駐在所

小菅村役場

小菅村体育館
中央公民館（YLO 会館）

小菅村
観光協会

139

川池

田元

大マテイ山

- ・美しい地域の景観
- ・手入れされた山林
- ・源流域の自然
- ・橋立集落を下から見上げる景色がいい！

きぼうの館（高齢者生活福祉センター）の利用者さんとのふれあい。やさしい笑顔がいっぱい！

●残していきたい① 伝統的なお祭り！

- 残していきたい②
- ・みんなとつながって生きていく
- ・便利過ぎず、田舎ならではの暮らしを楽しむ！
- ・きれいな水や空気を守る
- ・名人の知識を伝える、いろいろな名人の知恵をなくさない！
- ・暮らしの知恵（漬物、花庭木、畑など）を伝えていく

●新しくつくっていききたい①

- ・老若男女が集まるたまり場
- ・子どもがたくさんいるむら
- ・子どもたちが集まり、のびのびと学び遊べる場所。子どもは村の宝！
- ・農業はグループで補い合い、楽しく！

現在のお気に入りの場所・コト・モノ【緑字】と未来のむらの姿（こうなったらいいな）【桃字】について、参加者のみなさんで話し合いました。ガイドブックには載っていない、村民だからこそ知る本村のいいところを集めました。





むらづくりワークショップでの個別グループによる話し合いの様子



むらづくりワークショップでの参加者による話し合いの様子

第2編

基本構想

第1章 むらの将来像

第2章 分野別目標（むらづくりの方向性）

第1章 むらの将来像

本村は多摩川源流をはじめとする豊かな自然に恵まれ、尊い歴史文化、村民の温かい心にはぐくまれてきました。私たちは、先人から受け継いだ「水と緑が豊かな源流の郷」を誇りとし、ともに守り、育て、次の世代に引き継いでいかなければなりません。また、本村では平成6年度に下水道普及率100%を達成し、近年では松姫トンネルの開通がむらの大きな発展につながっています。

この将来像は「昭和」から「平成」そして「令和」へと歳月を重ねても、決して変わることのない私たちの想いである「源流のむらづくり」にちなんで、目標年次である令和13年に目指すむらの姿を「将来像」として描き、むらづくりに関わるすべての主体が共有し、力をあわせて実現を目指します。

<将来像>

みんなでつくる源流の輪 こすげ

■ 将来像にこめた想い

みんなでつくる

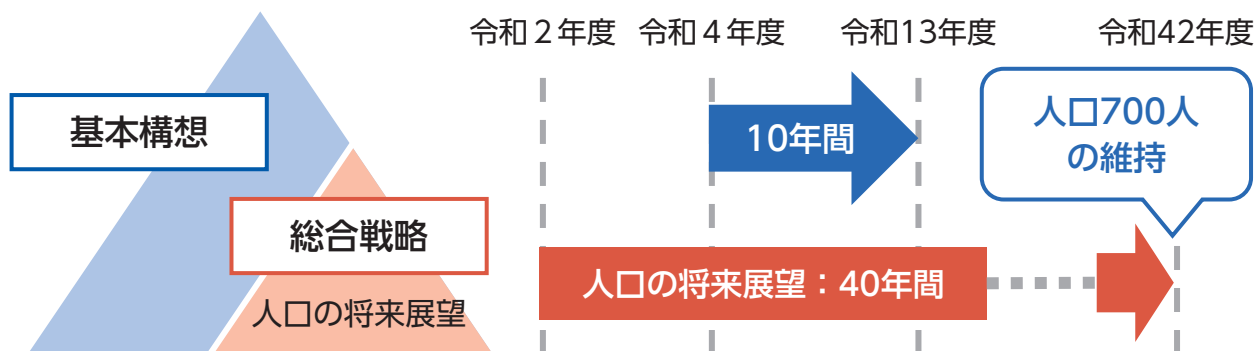
- 第4次小菅村総合計画の将来像「元気で温かい源流の郷 こすげ～源流を誇りに、みんなが協働するむらづくり～」の“協働”の想いを引き継ぎます。
- 本村の村民・むらづくり関係団体・事業者・行政、そして源流域の方々や本村の特性や“源流のむらづくり”への想いに共感してくださる日本中・世界中の方々とともに、それぞれできることに取り組み、支え合い、“みんなで力をあわせて”未来に向けて、むらづくりを進めていきたいという想いをこめました。

源流の輪 こすげ

- 本村は、昭和62年の「多摩源流まつり」の開催を機に「多摩川源流」を核としたむらづくりをつづけてきました。多摩川流域やその想いに共感した方々との連携や交流活動は全国的にもまれなものであり、この長い歴史のなかで培ってきた成果の一つひとつが、本村にとって大きな財産となっています。
- 村民の想いを聴くなかで、昔もいまも「源流」とともに生き、これからも生きていきたい、また、「源流」「流域」をとおして、本村と人、人と人をつなげたいという意見が多くありました。
- 村民が誇る唯一無二の「多摩川源流」「歴史文化」「村民の温かい心」を、かけがえのない財産として守り、育てながら、自然環境と人のつながりを深め（人情味のある本村のイメージがより伝わるよう「輪」と表現）、それにより持続可能な活力を生み出すむらづくりを進めます。

目標人口：令和13年に約680人

本計画の目標年次である令和13年での本村の目標人口は、本村の直面する人口減少に立ち向かうための目標や具体的な施策を示した「まち・ひと・しごと小菅村地方創生総合戦略（令和2年3月策定）」（以下、「総合戦略」という。）の考え方にもとづき、約680人とします。



📝 なぜ「令和13年に約680人」なの？

令和4年1月1日現在本村の人口は679人ですが、総合戦略において将来人口の推計を行った結果、何も対策をしない場合は令和12年で530人、令和42年では306人まで減少するという予測（社人研の推計^{*}）が出ています。

そこで本村では、人口に影響を与える出生率や移動率などについて複数の仮定を設定し、これらにもとづく複数の推計を行うことによって、本村を維持しながら実現可能と考えられる目標人口（令和42年：人口700人の維持）を設定しました。

本計画においても、現時点で総合戦略における将来人口の推計との大きな乖離^{かいり}は見られないこと、また、総合戦略で人口減少対策として成果をあげているこれまでの取組を引き続き行いながら一体的に推進していくことが目標人口の達成にも効果があると考え、総合戦略の目標数値を設定しました。

また、総合戦略の目標数値は国勢調査と同じ5年ごととなるため、本計画では目標人口を達成するための通過点として推計された数値（令和12年679人、令和17年661人）をもとに、目標として「令和13年に約680人」を設定しました。

➡ もっと詳しく知りたい方は、お使いの携帯電話やスマートフォンで右の2次元バーコード（QRコード）を読み取り、総合戦略の将来人口推計のページ（p.15～19）をご覧ください。



^{*}社人研の推計／国立社会保障・人口問題研究所の推計。社人研では国の社会保障制度の中・長期計画並びに各種施策立案の基礎資料として、人口と世帯に関する将来推計を実施し、公表している。

■ 将来像の実現のために…

分野別目標の設定

各分野における令和13年に目指す姿を「分野別目標」として設定します。
むらづくりに関わるすべての主体が共有し、協働・連携しながら達成を目指します。

重点プロジェクトの設定

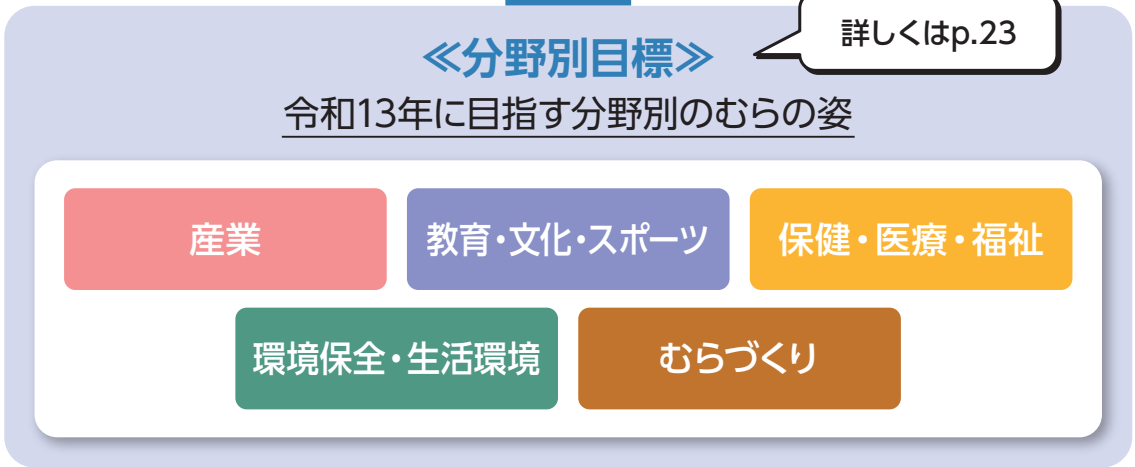
期間内に、特に重点的に取り組む施策を「重点プロジェクト」として設定します。

分野別施策の推進

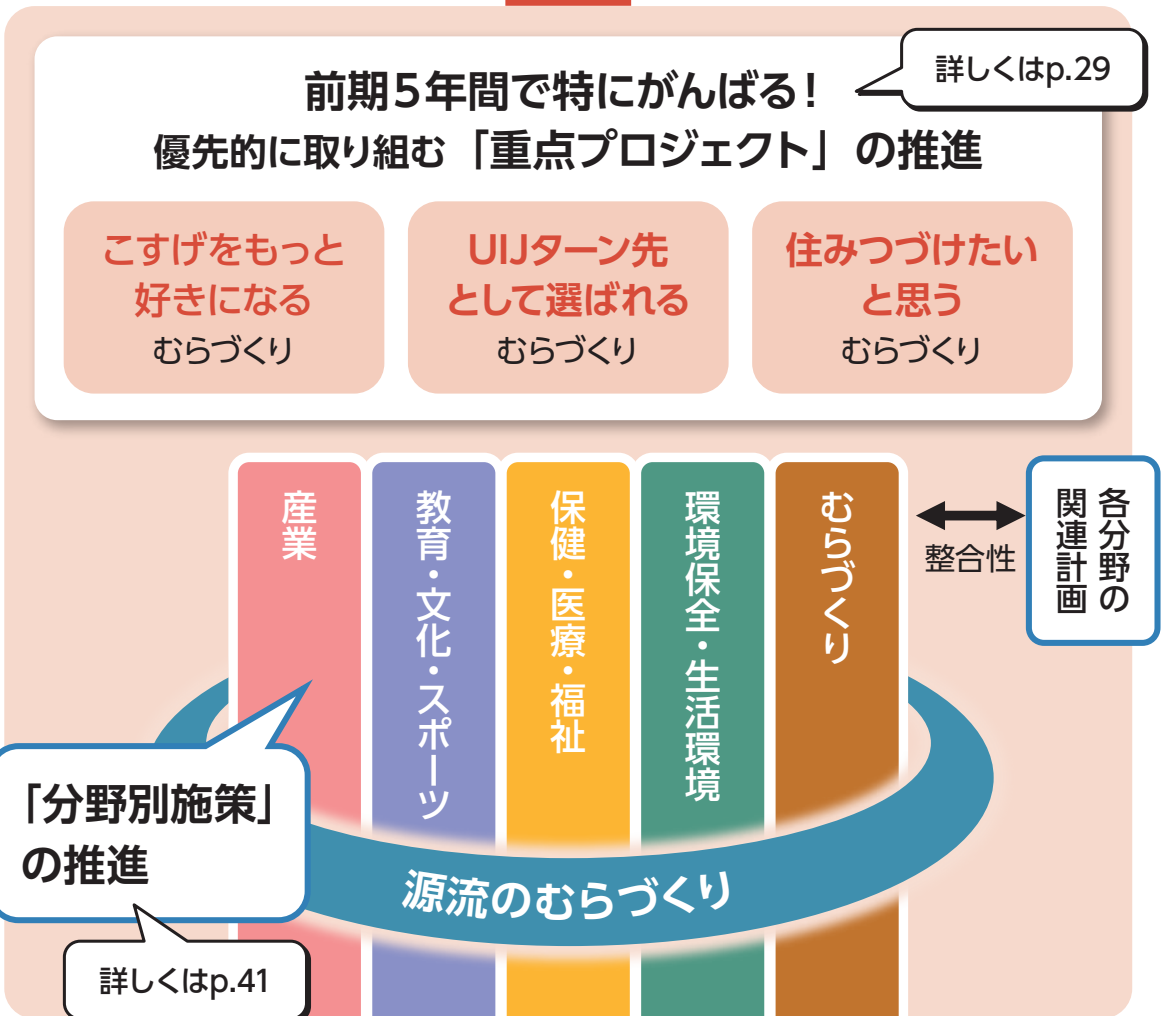
「重点プロジェクト」を含め、本村が取り組むすべての施策を5つの分野にとりまとめるとともに、それぞれの分野において策定する関連計画の整合性を図りながら推進していきます。

基本構想

<将来像>
令和13年に目指すむらの姿
みんなでつくる源流の輪 こすげの実現



前期基本計画

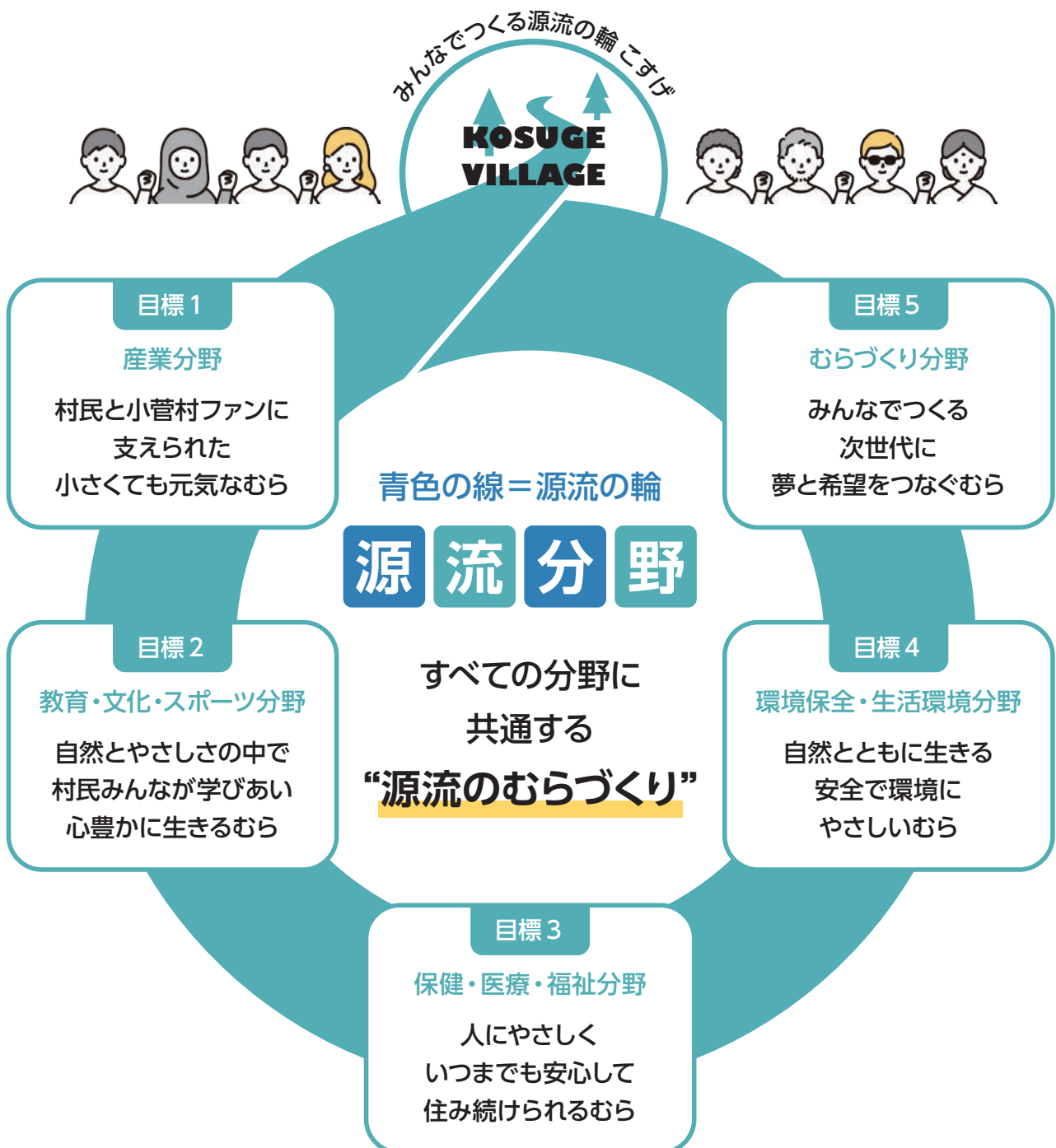


第2章 分野別目標（むらづくりの方向性）

将来像の実現に向けて、分野ごとに目標（むらづくりの方向性）を定めました。

下の図は、将来像の実現に必要な5つの分野の目標のつながりと、相互の連携により、各分野の取組が他の目標の達成にも好ましい結果をもたらすイメージを表しています。

また、それぞれの分野別目標をつなぐ青色の線は、将来像として示した「源流の輪」を表し、5つの分野すべてに共通して、小菅村ならではの“源流のむらづくり”が関係していることを表しています。



10年後（令和13年）のイメージ

1

産業分野

村民と小菅村ファンに支えられた 小さくても元気なむら

村民がつくった小菅村の農林水産物が全国で愛されています。



むらの魅力が世間に知れ渡り「小菅村のために」という小菅村ファンが増えています。



魅力あるお店と買い物する人で、むらににぎわいがあふれています。



豊かな自然に着目した体験観光の推進など

村内に日常生活に必要な買い物ができるお店があります。



地域に根ざした企業が活気にあふれています。



希望するすべての人が働けるむらになっています。



商工振興事業に対する補助を活用した地元企業の活性化など



3

保健・医療・福祉分野

人にやさしく いつまでも安心

在宅医療やICTを活用した医療体制（オンライン診療）など



安心して医療が受けられる制度が整っており、村民が健康づくりに取り組んでいます。



地域の支えで、子育てしやすいむらになっています。



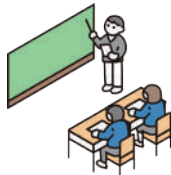
子どもの預かり場の増加など

2

教育・文化・スポーツ分野

自然とやさしさの中で村民みんなが学びあい 心豊かに生きるむら

むら独自の教育（自然体験活動など）が、心豊かな子どもを育てています。



地域の支えと安心できる環境で、子どもが健やかに育っています。



豊かな森林を身近に感じる生活、森林資源を活用した教育が行われています。



ICT教育の実施など



伝統の技を担う人材の育成・確保など

子どもから高齢者まで誰もが自由に学べ、交流する場が生まれています。



誰もが自分の能力を活かせるむらになっています。



歴史や芸術、スポーツに親しむ人が増えています。



私もあなたも将来の小菅村をつくっていく一人だよ。
みんなで力をあわせてむらづくりに取り組もうね。



4 環境保全・生活環境分野

自然とともに生きる 安全で環境にやさしいむら

「多摩川源流」をはじめとする豊かな自然が保たれています。



アジサイなど
花木の植栽



ゴミが減り、エネルギーの地産地消に取り組んでいます。



安全、安心な水が安定して供給されています。



交通環境が整備され、人が移動しやすく交流できます、元気なむらになっています。



村民タクシーなど

買い物が困難な方など誰一人として取り残さないやさしいむらづくりが行われています。



ドローン配送など

ともに助け合える、防災意識の高いむらになっています。



防犯、交通安全意識の高いむらになっています。



して住み続けられるむら

多くの高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしをおくっています。



みんなが助け合い、誰もが生活しやすい環境になっています。



ひとり暮らし高齢者などの緊急時の通信・連絡体制の整備、高齢者生活福祉センターの利活用の支援など



多摩川源流大学の充実、1/2村民カード発行数の増加など

5 むらづくり分野

みんなで作る 次世代に夢と希望をつなぐむら

村民、団体、企業、行政などが支え合い、次世代につなげられるむらをつくっています。



つどいの場の利用など

年齢や立場に関係なく、村民の個性が活かせる地域コミュニティができています。



むらの情報がいつでもわかり、自分の声が村政に届きます。



むらの魅力が広く発信され、交流の輪が広がっています。



誰もがICT※を活用できるむらになっています。



村民と課題の解決に取り組む、村民も積極的に参加する行政組織となっています。



むらが保有する資産を、将来にわたり、有効に管理・運営する仕組みになっています。



税金など、むらに入のお金が有効に活用され、健全で持続可能な財政運営が行われています。



※ICT／[Information and Communication Technology(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)]の略称で、日本語では「情報通信技術」と訳される。身近な例では、スマートフォンでのやり取り、メール、ネット通販などが該当する。



源流部の冬



本村の風景 雄滝

第3編

基本計画

第1章 重点プロジェクト

第2章 分野別施策

1 産業

2 教育・文化・スポーツ

3 保健・医療・福祉

4 環境保全・生活環境

5 むらづくり

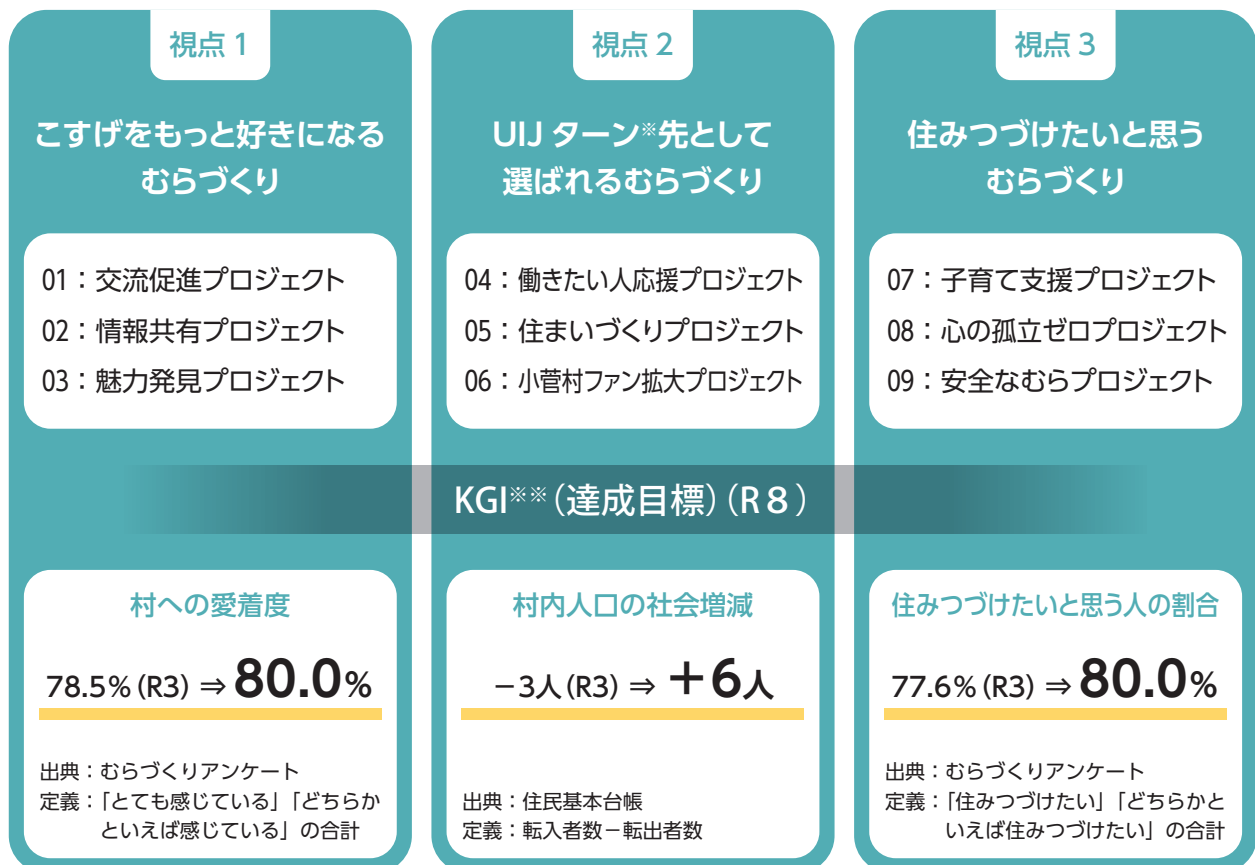
第1章 重点プロジェクト

本計画では、人口減少や少子超高齢化のなかでも、本村ならではの持続可能なむらづくりを進めるため、59の施策を進めていきます。

そのなかで、3つの視点から、前期5年間で特に“みんなで”重点的・優先的に取り組むべき施策を「重点プロジェクト」として位置づけます。

将来像の実現と分野別目標の達成に向け、基本計画の施策体系を越えて、横断的、一体的、集中的に進めていきます。

9つの重点プロジェクト



※UIJターン/Uターンは地方から進学や就職などで都市に移住した人が、再び生まれ育った地域に戻ることに。Iターンは都市部に生まれ育った人が、地方に移住すること。Jターンは進学や就職で地方から都市に移住した後、生まれ育った地域に近い地方都市に移住すること。

※※KGI/Key Goal Indicator(重要目標達成指標)。最終的な目標の達成度を把握するための指標。なお、「KPI」は、KGI達成までの各過程の達成度を測るもので、最終的な目標までの中間指標の意味をもつ。

【重点プロジェクトの見方】

ここでは、p.32以降のプロジェクト01～09の見方について説明します。

KPI（成果指標）

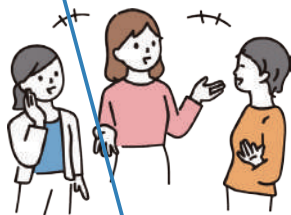
KPIとは「重要業績評価指標」であり、目標の達成に向けた各過程や行動を評価するための、具体的な指標のことです。プロジェクトのめざす姿の状態を客観的な数値で表すための指標を記載しています。

プロジェクト名

3つの視点ごとに、3つのプロジェクトを設定しています。

目標値

5年後（令和8年）の目標値を記載しています。



プロジェクト01 村民とむらの接点をつくろう！ 交流促進プロジェクト

本村ならではのゆるやかで多様なつながりを感じる、地域の多世代の交流を促進することで、むらに愛着と誇りを感じる取組を進めていきます。

KPI	基準値(R3)	目標値(R8)	数値把握担当課
つどいの場の利用グループ数	5グループ	10グループ	住民課
地区常会の住民の参加割合	全住民の4割	全住民の6割	総務課

取組内容／本計画で関連する施策

- 交流拠点の創出の支援／5-1[3] (p.73)
- 団体・事業者の「話し合いの場」の支援／5-1[2] (p.73)

本計画で関連する施策

取組内容と関連する分野別施策の番号と掲載ページ番号を記載しています。

取組内容

プロジェクトのめざす姿を実現するために行う具体的な取組を記載しています。

分野別施策の番号・掲載ページ番号

【例】 5-1…施策方針 [3]…施策番号
(p.73)…掲載ページ番号

【視点1】

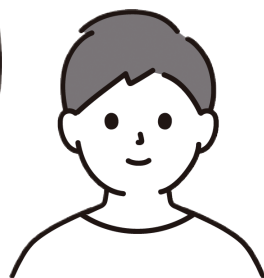
こすげをもっと好きになるむらづくり

村民とむらの接点を増やし、むらへの愛着と誇りを高めるプロジェクトを進めます。
いまは人生100年時代。本村ならではの豊かな自然や人の温かさを守りつつ、ゆるやかで多様なつながりをもつことが、いつまでも心豊かで幸せな生活をおくるための秘訣です。

むらに生まれた人、引っ越してきた人。性別や年齢が違って“小菅村”でつながっています。一人ひとりが自分の思いやできることを、楽しみながらカタチにしていけば、むらは少しずつ良くなっていきます。

村民の声①

小菅村の魅力は豊かな自然と温かい心。おじいちゃんやおばあちゃんにもっといろいろなことを教えてもらいたいし、話を聞きたい！
みんなで集まれる場所や話ができる機会があると、むらの人とのつながりができるし、むらをもっと好きになると思うな。これからも自分にできることはやっていきたい。



団体の声

むらをよくしようと思っている団体が集まって話し合う場があってもいいかもしれない。むらのために何かしたいからもう少し、県や村、団体など**それぞれの取組の情報**がわかるといいなあ。



村内放送やCATVで情報が発信されているけど、放送を聞けなかったりテレビを見られなかったりする状況が多いので、もっと気軽にわかるように**SNSなどを活用**したらよさそう。

村民の声②



プロジェクト01 村民とむらの接点をつくろう！ 交流促進プロジェクト

本村ならではのゆるやかで多様なつながりを感じる、地域の多世代の交流を促進することで、むらに愛着と誇りを感じる取組を進めていきます。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
つどいの場の利用グループ数	5グループ	10グループ	住民課
地区常会の住民の参加割合	全住民の4割	全住民の6割	総務課

■取組内容／本計画で関連する施策

- 交流拠点の創出の支援／5-1③ (p.73)
- 団体・事業者の「話し合いの場」の支援／5-1② (p.73)



プロジェクト02 むらづくりはまず知ることから！ 情報共有プロジェクト

むらづくりを支えるみなさんが情報を共有することから、むらづくりはスタートします。いまのむらの状況や課題が何なのかわからなければ、話し合いや活動も始まりません。行政もむらの取組などについて村民のみなさんにとってわかりやすい情報の提供に努めます。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
行政発信のSNS等の登録者数	0人	350人	総務課
行政発信の紙媒体の配布回数	2回/月	1回/月	総務課

■取組内容／本計画で関連する施策

- 広報やSNSなどを活用した積極的な行政情報の提供／5-1① (p.73)
- 村の情報の一元管理と発信／5-1① (p.73)
- 広く村民の声を聴く活動の実施／5-1① (p.73)
- ICT (DX事業) の活用による情報提供の実施／5-3① (p.75)
- CATVの新たな利用方法の検討、実施／4-6③ (p.70)、5-1① (p.73)



プロジェクト03

こすげのここが好き！ 魅力発見プロジェクト

各地区の自然、歴史文化、産業などの地域資源を村民自らが発掘・創出し、また、これまでに発掘・創出したむらの個性や魅力をさらに磨き上げ、全国に発信していくプロジェクトです。むらの魅力を発見し、地域の良さを感じる取組を進めていきます。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
村指定文化財件数	6件	7件	教育委員会
多摩川源流大学学生受入れ数	800人	1,000人	教育委員会
森林の未利用材活用量	0m ³	300m ³	源流振興課

■ 取組内容／本計画で関連する施策

- 源流域の伝統文化（村内各地の伝統芸能など）・食・産業の伝承／2-4①（p.56）
- 交流活動（多摩川源流大学をはじめとする村内各種団体及び多摩川流域自治体との連携など）の支援／5-1①（p.73）、5-2①（p.74）
- 環境保全の推進／4-1①（p.65）
- 源流域の美しい景観の維持／4-1①（p.65）
- 源流産業における農地の維持・確保／1-1①（p.47）
- 沿道及び観光施設への植栽活動の推進／4-1①（p.65）

【視点2】

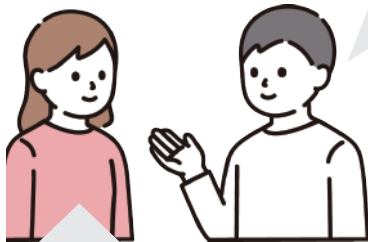
UIターン先として選ばれるむらづくり

本村で生まれた子どもたちが、村外へ進学し、そのまま戻ってこないことが悩みです。また、本村に興味や親近感がある人には本村に来てほしい。そして、離れていても、本村を応援してくれる人をもっともっと増やしたい。

行きたくなる場所や会いたくなる仲間をむらのなかに増やしていくことで、むらから巣立つ多くの若者がまた帰ってきたくなる、全国から訪ねてみたくなるむらを築きます。

村外に住む村出身者の声

むらを離れても、小菅村のことは好きだよ。離れていても、小菅村の情報が簡単に手に入るといいな。いますぐには戻れないけど、地元のために何かできることがあれば協力したい。



もっと住宅の選択肢があるといいな。田舎に住むからには家庭菜園をしたり、ペットを飼ったりしたい。そういう願いが叶いやすい環境だと移住を考えられるかも。

Iターン候補者の声



あと5～10年経てばいまよりも空き家が増えるので、利活用が大切だと思うわ。

村民の声

村内事業者の声①

新しい産業も大切だし、いまある産業もなくならないようにしたい。村外から来てくれる若者（働き世代）を増やしていくのもいいと思う。小菅村に帰ってきてくれた人も積極的に採用するよう努力しているよ。



子育て中の女性や元気な高齢者など働きたい人と企業をマッチングさせるような仕組みがあるといいなあ。

村内事業者の声②



プロジェクト04

「働きたい人が働けるむら」を当たり前に！ 働きたい人応援プロジェクト

本村には、私たちの暮らしを支える仕事がたくさんあります。生活状態に応じて柔軟に働ける仕組みをつくることで、若い世代から高齢者まで、活躍する場を増やしていきます。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
村内各事業所の新規採用者数	6人	8人	源流振興課

■ 取組内容／本計画で関連する施策

- 働きたい人と人材不足の事業者のマッチング支援／1-4① (p.50)
- 地元企業の労働力不足解消に向けた取組／1-4① (p.50)
- 女性、高齢者、障がい者などの活躍推進に関する啓発や人材発掘／1-4①② (p.50)
- 子育てをしながら働くことができる環境の整備／1-4① (p.50)
- 起業支援／1-3③ (p.49)
- 自主的ボランティア団体を取りまとめる人材育成支援／5-1③ (p.73)



プロジェクト05

すまいるつながる！ 住まいづくりプロジェクト

多様な住まいがあるむらには、多様なライフスタイルをおくる人が集まります。大切にされてきた家を放置することなく未来につなぐことなど、本村だからこそできる、家と人・地域との関係のはぐくみ方があります。なお、本プロジェクトは、村内の諸課題解決につながるものであるため、最重要プロジェクトとして位置づけ、特に推進します。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
新たに活用できた空き家軒数	1軒	5軒	源流振興課
新たな住宅の利用世帯数	1世帯/累計	6世帯/累計	源流振興課

■ 取組内容／本計画で関連する施策

- 空き家の利活用による住む家の創出・確保／4-5① (p.69)
- 多様な要望に応える住宅の整備推進／4-5③ (p.69)
- 公営既存住宅の環境整備／4-5③ (p.69)

★最重要プロジェクト★ 空き家の利活用促進に向けた人材確保やプロジェクトの体制づくり



プロジェクト06

こすげのタカラ×村民のチカラ！

小菅村ファン拡大プロジェクト

進学に伴う転出学生などに対する就職に関する情報提供や、新たな関係づくりについて検討します。また、観光やイベントなどの来村者と本村との関わりを深められるような取組を進めていきます。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
小菅村村民ポイントカード (1/2村民カード) 発行件数	2,200枚	3,000枚	住民課
ふるさと納税件数	350件	800件	総務課
企業版ふるさと納税寄付件数	1件	2件	総務課

■ 取組内容／本計画で関連する施策

- ふるさと納税制度の活用／5-3③ (p.75)
- 出身者や転出者との新たな関係づくり (村人会など) ／5-2② (p.74)
- 来村者と村の関わりを深められるようなイベントの実施／5-2①② (p.74)
- 知名度・居住環境などの理解度の向上と宣伝・広報の強化／4-5② (p.69)、5-2② (p.74)

【視点3】

住みつづけたいと思うむらづくり

本村の住みやすい理由として「自然環境が良い」「事故・犯罪が少なく安心」「災害が少なく安全」などがあげられています。本村での安心安全で充実した日常生活や、将来にわたって自分らしい暮らしがイメージできるむらづくりを進め、誰一人として取り残さず、いつまでもむらに住みつづけてほしい。

村民の声を施策に結びつけ、本村の充実した「こすげライフ」を村内外のもっと多くの人に知ってほしい。そして、本村のいいところをもっと体感してほしいと思っています。

子育て世代の声

小さい子どもがいるお母さんたちは、小さい子どもを自分で見ないといけないけど、働きたいと思っている人が多いよ。
子育て中でも働きやすい環境が整うと住みやすいと思うわ。



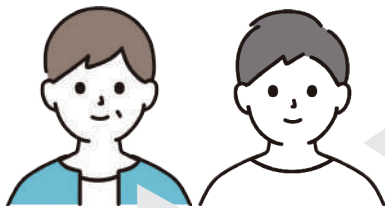
村民の声①

配食サービスは、ひとり暮らしの高齢者などがとても楽しみにしているよ。
支えられる側ではなく、支える側でいつづけられる元気な高齢者でいたいよ。



団体の声

土砂災害時の土砂を取り除く作業などはみんなで協力してもらえるとありがたいな。



松姫トンネルが開通して、とても便利になったよ。昔より車が増えたけど歩道がないから、子どもの通学が少し心配かな。道路の整備が進むといいな。

村民の声③

いままで家庭内で解決できたことも、高齢化などで、家族内で解決できないことが増えているわ。
買い物や通院時の手助け、泊まれる介護施設の整備などが求められるなかで、小菅村だからできる支援をみんなで考えてやっていく必要があると思うわ。

高齢者が作物をつくっても、鳥獣害被害が多くて困っているという声が多いよ。
行政でも対策してもらっているけど、なかなか減らなくて…。

村民の声②

村民の声④



プロジェクト07

こすげで子どもを育てたい！

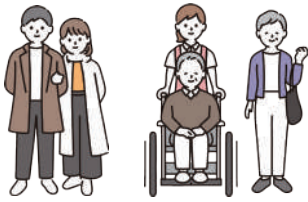
子育て支援プロジェクト

子育て世代が楽しく過ごすことができる環境や安心して子どもを預けることができる環境づくり、本村ならではの魅力ある学校づくりを進めます。

KPI	基準値(R3)	目標値(R8)	数値把握担当課
子ども（1～2歳、小学生）の預かり場の設置箇所数	0箇所	1箇所	住民課
公営塾*参加者数	0人	6人	教育委員会
子育て世帯移住件数	1世帯	2世帯	教育委員会
コミュニティ・スクール**の運営体制確立	0	1	教育委員会

■取組内容／本計画で関連する施策

- 家族みんなや子どもが楽しめる環境の整備／4-6② (p.70)
- 子育てをしながら働くことができる環境の整備／3-3①② (p.61)
- 本村の資源を活用した教育の推進／2-1① (p.53)
- 子育て世代に向けた宣伝・広報の充実／5-2② (p.74)



プロジェクト08

いつまでも安心してらせる！

心の孤立ゼロプロジェクト

村民と一体となってむらの課題を解決するため、地域での支え合いに関する活動を支援します。

KPI	基準値(R3)	目標値(R8)	数値把握担当課
在宅医療の利用件数	2件	5件	住民課
村民タクシー運営業務実施組織数	0組織	1組織	出納室
ドローン配送可能地区数	3地区	全地区(8地区)	出納室
買い物弱者向けのサービスを提供する店舗数	0店舗	3店舗	出納室

■取組内容／本計画で関連する施策

- 地域が取り組む多様な高齢者支援活動の支援／3-4①② (p.62)
- 地域福祉人材育成の支援／3-2① (p.60)
- 村民タクシー運営業務実施組織の支援／4-4② (p.68)
- ドローン配送・物流の実用化の検討／4-5③ (p.69)

※公営塾／いわゆる学習塾を公営とした形態。子どもに学校と家庭以外の学べる場所を提供することを目指す。

※※コミュニティ・スクール／学校運営協議会制度。学校と地域住民などが力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことが可能。



プロジェクト09 地域でつくる！ 安全なむらプロジェクト

地域住民の支え合いを大切に、野生鳥獣や災害による被害、交通事故などの未然防止のための自主的な取組を通じて“地域ぐるみ”での「安全な生活を守るむらづくり」の仕組みを構築するプロジェクトです。

KPI	基準値 (R3)	目標値 (R8)	数値把握担当課
鳥獣捕獲件数	63件	105件	源流振興課
機能別消防団員数 [※]	0人	15人	出納室
交通事故発生件数	40件	35件	総務課

■ 取組内容／本計画で関連する施策

- 自主的な鳥獣被害対策の支援／1-1① (p.47)、1-2① (p.48)
- 防災行政無線の整備・更新／4-6③ (p.70)
- 地域防災力の向上（住民の防災意識の向上）／4-7① (p.71)
- 道路や公共交通の整備／4-4①② (p.68)
- 河川・橋りょうの整備／4-6① (p.70)
- 森林の整備／1-2① (p.48)

※機能別消防団／すべての消防団活動に参加できない人が、市町村などで定めている特定の活動・役割に従事する制度。機能別消防団員は、定められた特定の活動のみに従事する。



冬の滝



本村の風景 小菅川

第2章 分野別施策

基本構想で掲げる将来像や分野別目標のもと、中・長期的に推進する各分野の施策などについて、方針や主な取組などを総合的かつ体系的に示します。

分野	施策方針	
1 産業	1 農業・水産業の振興	3 観光業・商工業の振興
	2 森林業の振興	4 雇用環境の整備
2 教育 文化 スポーツ	1 教育の充実	4 歴史・文化の継承と活用
	2 生涯学習の推進	5 スポーツの推進
	3 人権尊重社会の実現	
3 保健 医療 福祉	1 保健・医療サービスの整備	4 高齢者福祉の推進
	2 地域福祉の推進	5 障がい者福祉の推進
	3 子育て環境の整備	
4 環境保全 生活環境	1 環境の保全	5 住宅・住環境の整備
	2 循環型社会の形成	6 生活基盤の整備
	3 水道の維持・管理	7 地域安全の確保
	4 道路・交通網の整備	
5 むらづくり	1 自主的・主体的な村民活動の促進	3 効率的・効果的な自治体の運営
	2 多様な交流の推進	

※各分野の施策は、優先的に取り組む順に記載しておりますが、「3保健・医療・福祉」については、各世代や個人の状況によって対応を行う必要があり、優先順位を決めるのは適当ではないため、その限りではございません。

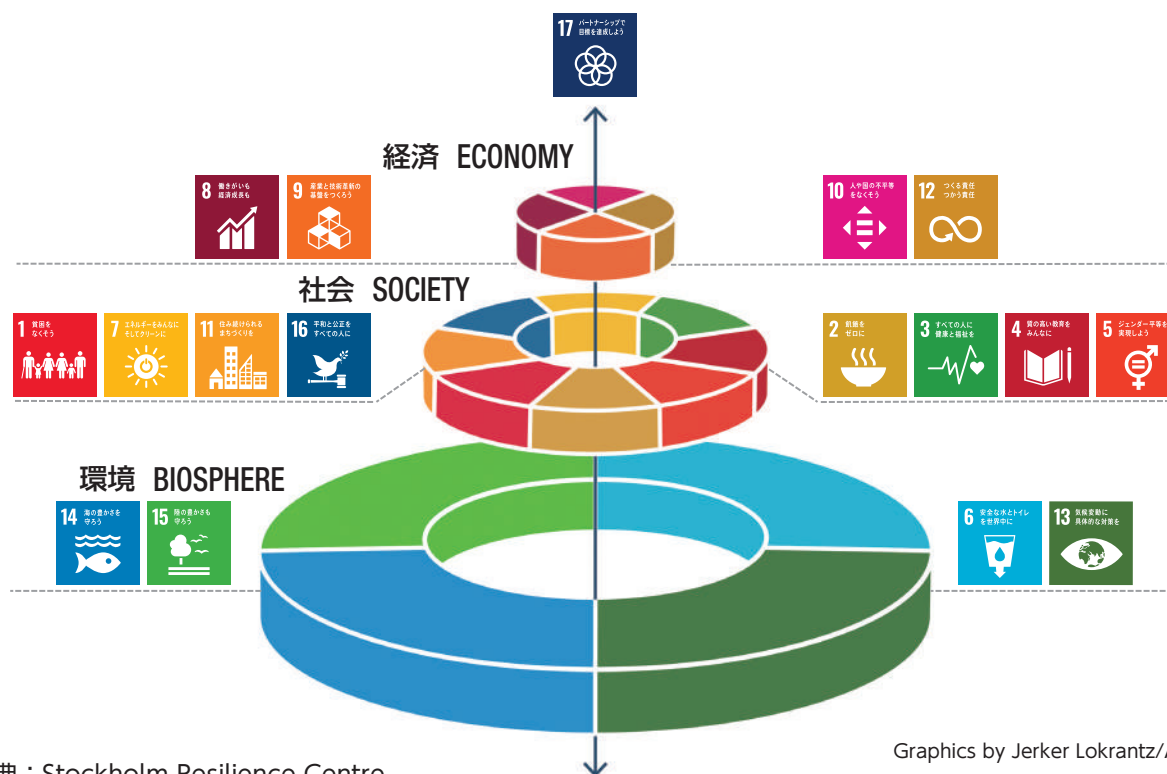
➡ 次のページでは、SDGs（持続可能な開発目標）の理念に沿って持続可能なむらづくりを進めるため、SDGsの推進について説明しています。

SDGsの推進

(1) SDGsの概要

SDGs（エスディージーズ）とは、平成27年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことで、2030年を目標年度とした、「誰一人として取り残さない」持続可能な世界を実現するための17のゴールと細分化された169のターゲットで構成された、日本を含めた世界共通の目標です。

SDGsでは、経済、社会、環境のバランスの取れた持続可能な開発を目指しています。下図の「ウェディングケーキモデル」は、17のゴールを「経済」「社会」「環境」の3層に分類し、可視化したものです。土台には人々が暮らす「環境」があり、その上に「社会」活動が成り立ち、社会活動が健全であれば、「経済」活動も活発化していくことが示されています。



出典：Stockholm Resilience Centre

<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>

Graphics by Jerker Lokrantz/Azote

SDGsを理解する上で、おさえておく5つのポイント

- 世界共通の目標（17のゴール、169のターゲット）
- 産官学民、村民一人ひとりが主役
- 誰一人として取り残さない
- 経済、社会、環境の三側面の調和
- 2030年为目标期限






(2) わが国の動向

平成28年5月に政府内にSDGs推進本部を設置、同年12月には、SDGsの実施指針が決定されており、各自治体に対し、各種計画や戦略・方針等の策定の際にSDGsの要素を最大限反映するよう求めています。

また、平成29年12月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略2017改訂版」においても、地方でのSDGsの推進が地方創生に資するとして、SDGsを行政・民間事業者・住民等の異なるステークホルダー間における共通言語として活用することにより、分野目標の理解が進展し、自治体業務の合理的な連携の促進が可能であると示しています。

(3) SDGsと自治体行政の役割

一方で、SDGsのゴールやターゲット及びそれらの進捗管理のための指標のなかには、グローバルで国家として取り組むべきものなどが多く含まれていることから、これらのなかから取捨選択し、本村の実情にあわせて落とし込む（ダウンサイジングした解釈）作業が必要です。

SDGsの17のゴール					
	1 貧困をなくそう	貧困をなくそう		7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
	2 飢餓をゼロに	飢餓をゼロに		8 働きがいも経済成長も	働きがいも経済成長も
	3 すべての人に健康と福祉を	すべての人に健康と福祉を		9 産業と技術革新の基盤をつくろう	産業と技術革新の基盤をつくろう
	4 質の高い教育をみんなに	質の高い教育をみんなに		10 人や国の不平等をなくそう	人や国の不平等をなくそう
	5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を実現しよう		11 住み続けられるまちづくりを	住み続けられるまちづくりを
	6 安全な水とトイレを世界中に	安全な水とトイレを世界中に		12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任
	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動に具体的な対策を		14 海の豊かさを守ろう	海の豊かさを守ろう
	15 陸の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう		16 平和と公正をすべての人に	平和と公正をすべての人に
	17 パートナリシップで目標を達成しよう	パートナーシップで目標を達成しよう		SDGsロゴマーク	SDGsロゴマーク

(4) 「SDGs日本モデル」宣言

本村は、「SDGs日本モデル」宣言に賛同し、SDGsの推進に取り組んでいます。

「SDGs日本モデル」宣言とは、令和元年に開催された「SDGs全国フォーラム2019」において発表されたもので、地方自治体が、企業・団体、学校・研究機関、住民などと連携してSDGsを推進し、地域の課題解決と地方創生を目指していくという考えを示したものです。



「SDGs日本モデル」宣言

私たち自治体は、人口減少・超高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、企業・団体、学校・研究機関、住民などとの官民連携を進め、日本の「SDGsモデル」を世界に発信します。

- 1 SDGsを共通目標に、自治体間の連携を進めるとともに、地域における官民連携によるパートナーシップを主導し、地域に活力と豊かさを創出します。
- 2 SDGsの達成に向けて、社会的投資の拡大や革新的技術の導入など、民間ビジネスの力を積極的に活用し、地域が直面する課題解決に取り組みます。
- 3 誰もが笑顔あふれる社会に向けて、次世代との対話やジェンダー平等の実現などによって、住民が主役となるSDGsの推進を目指します。

私たち自治体は、人口減少・超高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、企業・団体、学校・研究機関、住民などとの官民連携を進め、日本の「SDGsモデル」を世界に発信します。

1. SDGsを共通目標に、自治体間の連携を進めるとともに、地域における官民連携によるパートナーシップを主導し、地域に活力と豊かさを創出します。
2. SDGsの達成に向けて、社会的投資の拡大や革新的技術の導入など、民間ビジネスの力を積極的に活用し、地域が直面する課題解決に取り組みます。
3. 誰もが笑顔あふれる社会に向けて、次世代との対話やジェンダー平等の実現などによって、住民が主役となるSDGsの推進を目指します。

出典：滋賀県 「SDGs日本モデル」宣言について


















<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/gaiyou/sdgs/317864.html>

(5) SDGsと本計画の関連

本計画における、むらの将来像「みんなでつくる源流の輪 こすげ」の実現に向けた、村民と行政が一体となった取組は、SDGs達成に向けた取組と、スケールは異なるものの、その目指すべき方向性は同様であることから、本計画の推進を図ることで、SDGsの目標達成に貢献できるものと考えます。

そのため、SDGsと本計画の5つの施策分野の関連性を明確にするため、以下の関連対応表を作成しました。SDGsという国際目標を意識した取組やその達成への貢献は、本村への誇りの醸成にも寄与するものであるといえます。

【SDGsにおける17のゴールと本計画の施策分野との関連対応表】

		分野 1	分野 2	分野 3	分野 4	分野 5
	目標 1			○	○	
	目標 2	○		○		
	目標 3		○	○	○	
	目標 4		○	○		
	目標 5	○	○			
	目標 6				○	
	目標 7				○	
	目標 8	○				
	目標 9	○	○		○	○
	目標 10	○	○	○		○
	目標 11		○		○	
	目標 12	○	○		○	○
	目標 13		○		○	○
	目標 14	○			○	
	目標 15	○				
	目標 16		○		○	○
	目標 17		○		○	○

1 産業分野



分野目標

村民と小菅村ファンに支えられた 小さくても元気なむら

本村は、村民の知恵や経験を活かした農林水産業や商工業、そこから生まれる特産品、豊かな自然を活かした観光など、先祖から受け継がれてきた産業と、“小菅村”という地を気に入り、本村の新たなカタチを創る新しい産業とが、融合しています。また、新しい産業に携わる方々や若い世代にとっても、村民の知恵や経験は引き継いでいきたいという意見が多くありました。

産業では、特に担い手不足が大きな課題となっています。本村の人口規模や高齢化率を考えると、村内だけで解決するのは難しく、本村のよいところなどに共感してくれる方々（小菅村のファン）と一体となって、むらづくりを進めることで、小さくても元気なむらを目指していきます。

■ 関連するSDGs



■ 関連計画

- 小菅村森林整備計画
- 創業支援等事業計画
- 小菅村地域公共交通リバイバルプラン

■ 分野目標を実現するための施策

1-1 農業・水産業の振興

施策

1 生産基盤の整備

《主な取組》

- 鳥獣害の軽減・防止に向けた取組強化と支援対策の利用促進
- 耕作放棄地の再利用に対する支援、遊休農地対策
- 作付奨励金制度、出荷奨励金制度の充実及び利用の促進
- 特産品開発事業補助金の利用促進
- 養殖業の安定化支援

2 担い手の確保・育成

《主な取組》

- 担い手の確保・育成支援（体験農業・養殖業など）
- 関連団体と連携した就業支援の充実
- 若者、女性、高齢者の就業促進

3 特色ある農業・水産業の振興

《主な取組》

- 各種団体と連携した特色ある農業・水産業の振興
- 地産地消と6次産業化の推進

1-2 森林業の振興

施策

1 森林施業の基盤整備

《主な取組》

- 森林作業道の整備
- 林業体験指導者育成研修、認証取得の支援
- 林政アドバイザーの活用
- 森林環境譲与税の有効活用
- 森林組合の組織力の強化
- 森林経営管理制度を活用した森林の整備
- 鳥獣害の軽減・防止に向けた取組
- 樹木の病虫被害対策の実施

2 森林・地域材の活用

《主な取組》

- 観光・交流への活用（企業の森のイベントなど）
- 木質バイオマス事業
- 加工流通体制の強化
- 公共施設の木造木質化
- 交流事業との連携

1-3 観光業・商工業の振興

施策

1 観光業の振興

《主な取組》

- 体験観光の推進
- ウォーキング、サイクリング観光の推進
- 小菅村観光協会の組織体制の整備支援
- 観光情報提供の強化（WEBサイトの運営強化など）
- 観光拠点（施設）の整備

2 地元企業の活性化

《主な取組》

- 商工振興事業（企業の人材確保など）に対する補助
- 地域特産品の開発・販売・再生と新産業の創出
- 観光商業の振興
- 商工会による経営指導への協力

3 新たな地域企業づくり

《主な取組》

- 多様な企業誘致の推進
- 起業支援
- 働きやすい環境整備の検討
- 販路拡大とあわせた情報発信体制整備の検討

1-4 雇用環境の整備

施策

1 就業の安定と就業条件の向上

《主な取組》

- 関連団体と連携した労働環境・条件の整備促進の支援
- 体験型観光の推進などによる若者の就業の場の支援
- 田舎暮らし希望者への求人情報の提供
- 商工関連団体とともに働きたい人と人材不足の事業者のマッチング支援

2 新たな就業の場づくり

《主な取組》

- 既存店舗の後継者育成支援
- 空き家などを活用した若者や女性などの起業支援
- 農林水産業と観光の複業新規就業者の受入れに向けた支援体制の整備



国道139号松姫トンネル 開通セレモニー
平成26年11月17日開通

2 教育・文化・スポーツ分野



分野目標

自然とやさしさの中で村民みんなが学びあい 心豊かに生きるむら

本村の魅力として「自然環境」「人情味や地域の連帯感」という意見が多くあがりました。本村の義務教育は、村の特性である豊かな自然資源を活かしている点が特長です。今後は、伝統や文化に関する教育の充実や、ICT教育の推進を図るため、子どもたちを地域で育てられる環境をみんなで作っていきたくて考えています。本村では、保育所や小中学校の子どもたちが、散歩や授業で村内を自分の足で歩いて自然とふれあったり、村の職業や伝統文化を体験したり、村民の方々から話を聴いたりしています。多くの体験をとおした村民と子どもたちのふれあいは本村の魅力で、温かな心をもつ村民が多いからできることです。このような環境を通じて、子どもたちは自然とふれあい、心豊かにいきいきと育っています。

また、村民へのヒアリング調査などでは、“子どもの力が高齢者の活力にもなる”という意見がありました。これからも本村ならではの幅広い年代のふれあいを大切にしながら、子どもから高齢者まで、みんなが心豊かに生き、本村全体に活力が生まれるむらを目指します。

■ 関連するSDGs



■ 関連計画

- 生涯学習推進計画
- 小菅村共生プラン

■分野目標を実現するための施策

2-1 教育の充実

施策

1 義務教育の充実

《主な取組》

- 小中連携教育の推進
- 資源を活用した教育の推進
- 公営塾の開設
- 教育環境（学校施設・教員住宅）の整備
- 全国的に行われるGIGAスクール構想にあわせて村独自のICT教育を実施

2 健康の増進と心の教育

《主な取組》

- 家庭・学校・地域における食育の推進
- スポーツ習慣の確立と体力づくりの支援
- 安心して学べる居場所づくりの支援や相談体制の充実
- 地域福祉活動への参加や環境への取組など、ボランティア教育の推進

3 進学・就学の支援

《主な取組》

- 高校通学バスの運行
- 進路指導の充実
- 地元就職の支援（情報提供）

4 幼児教育の推進

《主な取組》

- 保育所と小・中学校の交流
- すげっこクラブの活動支援

2-2 生涯学習の推進

施策

1 生涯学習推進体制の整備

《主な取組》

- 教育委員会を中心に関連団体が連携した、家庭、学校、地域の協力による生涯学習推進体制の整備
- 趣味から自主的な地域団体活動への移行や、産業活性化に向けた学習活動の推進
- 指導者やボランティアの育成・確保
- 生涯学習施設として学校・公共施設（校庭、体育館など）の開放と利用促進

2 生涯学習内容の充実

《主な取組》

- 子どもの体験活動や職業能力の向上に向けた学習・研究活動の支援
- 関係各課との連携による村民のむらづくり活動に向けた学習・研究活動（健康、介護、人権、男女共同参画、環境、生涯学習、新生活、ボランティア活動など）の支援
- 関係各課との連携による地域産業活性化に向けた学習・研究活動（パソコン教室、起業塾など）の支援
- 生涯学習の成果や豊かな知識、技術、知恵を活かせるボランティア活動や発表・展示などの環境整備
- 学習機会、団体・グループなどのイベントなどの情報提供

2-3 人権尊重社会の実現

施 策

1 男女共同参画に向けた意識改革と条件整備

《主な取組》

- 固定的な性別役割分担意識の是正のための広報・啓発活動
- 「男女平等を推進する教育・学習」の推進
- 「雇用における男女の均等な機会」と女性の労働条件や職場での地位向上の推進
- 育児休業や介護休業制度などの周知と活用の促進
- 地域行事などでの託児スペースの確保
- 多様な生き方を制約する社会制度・慣行の見直しの促進

※「 」は国において使用される文言

2 青少年の健全育成

《主な取組》

- 小菅人を育む会の推進
- 関連団体と連携した青少年健全育成活動の推進
- 青少年や家庭に対する情報提供と相談体制の整備

2-4 歴史・文化の継承と活用

施策

1 祭りや伝統、文化財の継承と活用

《主な取組》

- 村民の伝統の技を担う人材の育成・確保の支援
- ふるさと教育運動の推進（文化財の保護と伝承）
- 源流域での伝統文化（村内各地の伝統芸能など）・食・産業の伝承
- 祭りや伝統、文化財の世代間交流や郷土教育などへの活用、観光資源としての活用

2 文化・芸術活動への支援

《主な取組》

- ミニ文化祭の開催
- 自主的な地域クラブ活動の支援
- 作品の公共施設への作品展示

2-5 スポーツの推進

施 策

1 スポーツ・レクリエーション活動の充実

《主な取組》

- 健康スポーツ（ウォーキングなど）の推進
- 小菅村スポーツ推進委員協議会を中心としたスポーツ・レクリエーション活動の支援
- 生涯スポーツの普及・定着の推進
- 研修会や講習会を活用した指導者育成の支援
- 学校・公共施設の地域開放と村民の利用促進

3

保健・医療・福祉 分野



分野目標

人にやさしく いつまでも安心して住み続けられるむら

本村の魅力では「人情味や地域の連帯感」という意見が多くあがりました。また、むらのキャッチフレーズとしても「安心」という意見が多く見られました。

村民を対象に行ったむらづくりアンケート調査では、特に高齢者の方々の多くが“いつまでも住みつづけたい”と思っていることがわかりました。また、アンケート調査やワークショップなどから、若い世代は高齢者の方々と“もっと話をしたい”“いろんなことを教えてほしい”など交流する機会を求めていることもわかりました。

人にやさしく、その想いを大切に、みんなが助け合いながら、誰もがいつまでも安心して住みつづけられるむらを目指します。

■ 関連するSDGs



■ 関連計画

- KOSUGE健康プラン21
- 小菅村国民健康保険データヘルス計画
- 小菅村地域福祉計画
- 小菅村高齢者福祉計画
- 特定健診等実施計画
- 介護保険事業計画
- 小菅人による次世代小菅人づくり計画

■ 分野目標を実現するための施策

3-1 保健・医療サービスの整備

施策

1 健康づくりの推進

《主な取組》

- 歯科検診
- 特定健診・検診
- 予防接種
- 事後指導
- 新規イベントや取組の情報発信の強化
- 地区の特性にあわせた健康講話や啓発活動の実施

2 感染症対策の基盤整備

《主な取組》

- 感染症対策に関する普及・啓発
- 感染症対策に対応した施設・物品の整備

3 疾病・介護予防の推進

《主な取組》

- 介護予防体操の実施
- 保健事業と介護予防の一体的な実施
- 地域包括支援センターの機能強化
- 介護予防事業（自主的な介護予防活動の支援）
- 社会福祉協議会、診療所、行政が連携した取組

4 医療体制の維持

《主な取組》

- 診療所体制の維持
- 歯科診療の確保
- 広域医療体制の強化
- 救急医療体制の強化
- ICTを活用した医療体制（遠隔医療体制）の構築

3-2 地域福祉の推進

施策

1 地域福祉を支えるひとづくり

《主な取組》

- 学校教育や社会教育、地域福祉活動や福祉ボランティア活動などの体験学習、福祉イベント、感動を伝える福祉広報などとおした福祉意識の醸成
- 社会福祉協議会や村民、団体などとの連携強化による自主的な地域福祉推進体制の整備、各集会所での健康づくりや団体活動の支援

2 地域福祉を推進するための環境づくり

《主な取組》

- 関連計画の見直しを図りながら、総合的・体系的な地域福祉事業と地域福祉活動の推進
- 公共施設のバリアフリー化と民間施設への普及啓発
- ひとり暮らし高齢者や障がい者の急病や災害などの緊急時の通信・連絡体制の整備

3-3 子育て環境の整備

施 策

1 保育サービスの整備

《主な取組》

- 母子・父子家庭の支援
- 一時保育などの受入れの検討
- ありんこ事業
- 学童保育の整備
- 児童心理士などの専門職を活用したサポート事業の実施の推進
- 保育所の改修・新設整備の検討

2 地域子育て環境の整備

《主な取組》

- 愛育会の活動支援
- 子育てアドバイザー（育成ママ）の配置、子育て世代包括支援センターの開設

3-4 高齢者福祉の推進

施策

1 社会福祉協議会の活動支援（高齢者対象）

《主な取組》

- 高齢者生活福祉センターの利活用の支援
- 小規模多機能型介護サービス事業所の設置の検討
- つどいの場の創出
- 配食サービスの支援
- 高齢者生活福祉センターの改修・新設設備の検討

2 生涯現役社会の実現

《主な取組》

- シルバー人材（元気な高齢者）と企業のマッチング支援
- 特産物の開発・生産・販売、観光ガイドなど、高齢者の生きがい就業の機会や場づくりの推進
- 老人クラブ活動の充実による、相互の交流や三世代交流、生きがい活動などの支援
- 高齢者の多様な学習・文化・スポーツ活動など、地域団体活動の支援
- 高齢者の地域コミュニティ活動やボランティア活動の支援

3-5 障がい者福祉の推進

施策

1 社会福祉協議会の活動支援（障がい者対象）

《主な取組》

- 情報提供や相談体制の強化
- 個々の対象者に応じたサービスの調整を行うケアマネジメント体制の整備

2 地域生活の支援

《主な取組》

- 福祉教育や地域での啓発、交流機会の拡充による村民の理解の促進
- 団体や広域的な連携による雇用の場の確保

4 環境保全・生活環境 分野



分野目標

自然とともに生きる 安全で環境にやさしいむら

むらづくりアンケート調査では、本村の住みやすい理由の1位は「自然環境が良い」、2位・3位は「事故・犯罪が少なくて安心」「災害が少なくて安全」という結果になりました。

本村を知る村内外の方の多くが、本村といえば多摩川源流をはじめとした豊かな自然だと感じています。また、ワークショップでは、現在のお気に入りの場所は「自宅」や「散歩コース」という意見も多く、その理由として、自宅や散歩コースから見える景色がいいなどがあげられ、村民のみなさんが自然とともに生きていることがわかりました。みんなが日常的に自然とふれあうことができ、安心して散歩などができる環境も本村ならではの。

いまある自然をこれからも守り育て、安全で環境にやさしいむらを目指します。

■ 関連するSDGs



■ 関連計画

- 小菅村源流景観条例
- 小菅村源流景観計画
- 一般廃棄物処理基本計画
- 災害廃棄物処理計画
- 経営健全化計画
- 小菅村地域公共交通リバイバルプラン
- 公共住宅長寿命化計画
- 小菅村空き家等対策計画
- 橋梁長寿命化計画
- 小菅村地域防災計画
- 小菅村国土強靱化地域計画

■分野目標を実現するための施策

4-1 環境の保全

施策

1 環境保全の推進

《主な取組》

- 「日本一美しい村づくり」の推進（クリーン・グリーン作戦の開催など）
- 温室効果ガス削減に向けた村民・事業者・行政が連携した組織づくりと普及啓発活動
- 省エネルギーの推進
- 環境への負荷が低い製品の利用の促進
- 沿道及び観光施設への植栽活動の推進

2 地域新エネルギーの活用

《主な取組》

- 環境ビジネス（SDGsビジネス）の促進
- 太陽熱利用や太陽光発電、農業用水などを利用した小水力発電、風車、バイオマスエネルギーなどの地域新エネルギーの調査・研究
- 地域新エネルギーの利用促進
- 避難場所、公共施設などへの電源（予備電源としても併用）として、太陽光発電システム導入の調査・研究

4-2 循環型社会の形成

施策

1 ごみの減量化・再利用・再生利用の促進

《主な取組》

- 関連計画の定期的な見直し
- ごみ排出ルールの周知
- マイボトルやマイバッグの利用促進・啓発
- リサイクル体制の強化
- ごみの有料化の検討

2 廃棄物の適正処理の推進

《主な取組》

- 広域連携の推進（処分委託先及び物品の検討）
- ごみの収集及び処理作業の安全性の確保
- 高齢者などのごみ出し支援

4-3 水道の維持・管理

施 策

1 簡易水道の維持・管理

《主な取組》

- 管路・施設の耐震化工事
- 適正な使用料の検討
- 災害時の緊急給水体制の検討、整備
- 村民、事業者などへの節水意識の啓発

2 下水道の維持・管理

《主な取組》

- 計画的な修繕と更新
- 適正な使用料の検討

4-4 道路・交通網の整備

施策

1 生活道路の整備

《主な取組》

- 広域幹線道路網の整備
- 生活道路の整備
- 緊急輸送路の確保
- 安全な道路づくり
- 清掃活動の推進
- 除雪機械の整備・充実など、効率的な除雪

2 持続可能な公共交通の構築

《主な取組》

- 路線バスの見直し、類似サービスの整理
- 村民タクシー業務組織の体制づくりの支援検討
- 村外者の村営交通利用の検討
- 近隣市町村や事業者との連携の推進
- 高齢者（買い物弱者、高齢者免許返納、虚弱者の移送支援）対策の検討

4-5 住宅・住環境の整備

施策

1 空き家の利活用

《主な取組》

- 空き家調査の実施
- 空き家改修補助金の整備
- 空き家の情報提供と相談業務
- 利活用促進に向けた人材確保やプロジェクトの体制づくり

2 若者の定住環境の整備

《主な取組》

- 企業従事者や若者などの定住、Uターンのための住宅の整備と宅地・賃貸住宅などの情報提供
- 若者住宅や集合住宅の維持・活用

3 良質な住宅・住環境の整備

《主な取組》

- 村営住宅の維持・活用
- 災害に強い安全な住宅・住環境の整備
- 廃屋解体への補助など支援の検討
- ドローン配送・物流の実用化の検討

4-6 生活基盤の整備

施策

1 河川・橋りょうの整備

《主な取組》

- 村道橋りょうの老朽化対策工事
- 橋りょう長寿命化計画の改定

2 公園・広場・緑地の整備・活用

《主な取組》

- 公園の維持・整備
- 村民による公園・広場・緑地や身近な森林や河川などを活用した子どもの集団遊びなどの機会づくりの促進と管理・活用の促進

3 地域情報化の推進

《主な取組》

- CATV設備の維持・管理
- 新しいCATV自主放送番組の検討
- 光ケーブルを利用したインターネット回線の配備・整備の検討
- 学校教育や社会教育における情報・コミュニケーション教育の充実
- 防災行政無線の整備・更新

4-7 地域安全の確保

施策

1 地域防災力の向上

《主な取組》

- 自主防災会の支援
- 災害時要配慮者に配慮した防災体制の確立
- 防災意識の普及・啓発
- 防災マップ（要約版）の作成・周知

2 消防・救急・防災体制の充実強化

《主な取組》

- 備蓄用品の拡充や避難所の確認
- 消防体制の強化（機能別消防団員数の確保など）
- 救急体制の強化（高規格救急自動車の更新など）
- ICTやドローンを活用した防災体制の構築

3 暮らしの安全確保（交通安全、防犯対策、消費者安全）

《主な取組》

- 交通安全協会と連携した啓発活動
- 防犯カメラ設置などによる防犯体制の強化
- 支障木除去やガードレール交換
- 防犯活動の推進
- 消費生活協力員の制度を活用した啓発活動
- 広域連携協定による相談体制の確保

5 むらづくり 分野



分野目標

みんなでつくる 次世代に夢と希望をつなぐむら

むらづくりアンケート調査の「今後むらづくりで取り組むべき項目」の1位は「持続可能なむら」でした。みんなの想いとして“小菅村がありつづけてほしい”という強い想いがあることがわかりました。

また、ワークショップの参加者の感想にもあった“小菅村では人口減少や高齢化など課題も多くあるなかで、ワークショップでは小菅村の好きなところや楽しいところ、おもしろいところなどをみんなで話し合っって素敵な意見がたくさん出て、とても夢が広がった！これからも自分にできることはやっていきたい”という想いを、みんながもち、よりよいむらをつくっていきけるような、そんな夢と希望のある計画にしたいという想いが本計画にはこめられています。

みんなで支え合い、力をあわせて次世代につながる源流のむらづくりを目指します。

■ 関連するSDGs



■ 関連計画

- 行政改革大綱及び集中改革プラン
- 小菅村定員適正化計画

■分野目標を実現するための施策

5-1 自主的・主体的な村民活動の促進

施策

1 住民参画の仕組みづくり

《主な取組》

- 広報やSNSなどを活用した積極的な行政情報の提供
- CATVの新たな利用方法の検討、実施
- 村の情報の一元管理と発信
- 村民の意見・提案の反映（区長会、地域懇談会など）

2 村民活動の促進

《主な取組》

- 情報発信による村民活動のきっかけづくり
- 地域おこし協力隊制度などを活用した地域協力活動の強化
- 村民のボランティア参加促進

3 区会など地域活動の支援

《主な取組》

- 交流拠点の創出の支援
- 関連団体などとの連携による、ボランティアの増加と活気ある地域づくりへの支援

5-2 多様な交流の推進

施策

1 小菅村ファンとの交流の推進

《主な取組》

- 多摩川源流大学の充実
- 多摩川流域自治体との交流
- こすげ村人ポイントカード（1/2村人カード）の普及
- 大学や民間企業などとの連携協定による地域活性化の取組推進

2 UIJターンの促進・支援

《主な取組》

- 村人会設立に向けた新たな取組
- 本村へUIJターンし、就業、起業する人への支援
- 新たな住宅整備にかかる助成制度の検討
- 空き家の利活用による移住・定住の促進
- 子育て世代に向けた宣伝・広報の充実
- 目的に合った情報発信方法（SNS、テレビ、雑誌、動画、イベントなど）での、本村の魅力や最新情報の発信

5-3 効率的・効果的な自治体の運営

施策

1 行政のデジタル化の推進

《主な取組》

- ICTの活用による情報提供の実施
- マイナンバーカードの普及・利用促進
- 行政手続のオンライン化
- 自治体情報システムの標準化・共通化への対応（情報セキュリティ対策含む）

2 人材育成・組織力の向上

《主な取組》

- 計画的な職員研修の実施
- 職員提案制度の推進
- 若手職員の人材育成の強化
- 職員の能力や特性を活かした効果的な職員配置
- 職場内のコミュニケーションの活性化

3 健全な財政運営の推進

《主な取組》

- 財政運営の健全化
- ふるさと納税制度の活用

4 広域連携の推進

《主な取組》

- 広域連携による村民サービスの向上、事業の効率化（ごみ処理、学校組合など）



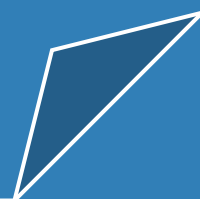
本村の風景 秋の紅葉



本村の風景 冬の小菅川 (小菅フィッシングヴィレッジ付近)

第 4 編

参考資料



第5次小菅村総合計画審議会審議経過

期 日	内 容
令和3年10月6日	第1回 第5次小菅村総合計画審議会
12月2日	第2回 第5次小菅村総合計画審議会
令和4年1月27日	第3回 第5次小菅村総合計画審議会

第5次小菅村総合計画審議会委員名簿

No.	各役職名	氏名(敬称略)	備考欄
1	村議会議員	木下 善満	
2	村議会議員	中川 勇	
3	区長会長	守重 千明	
4	女性の会・愛育会会長	佐藤千代子	
5	老人クラブ会長	舩木 善保	
6	農業委員会会長	守重 敏夫	
7	森林組合	中田 無双	副会長
8	商工会会長	古菅 立身	
9	観光協会会長	舩木 喜康	
10	教育委員	木下 満	
11	食生活改善推進委員会	古家知佳子	
12	多摩川源流大学	石坂 真悟	
13	子育て世代	鈴木せりか	
14	学識経験者	佐藤 英敏	会長
15	一般公募	森 弘行	

〈諮問〉

小総第 10-1 号
令和3年10月6日

小菅村総合計画審議会長 殿

小菅村長 船木直美

第5次小菅村総合計画（案）策定について（諮問）

小菅村では、21世紀の時代潮流の中で、“多摩川の源流”という存在価値を核として源流のむらづくりを推進しています。

村民と行政の“協働”による村づくりを更に推進し、村民の暮らしを支える新しい歴史を創り出すため、ここに「第5次小菅村総合計画」を策定します。

その基礎となるべき事項について、下記のとおり貴審議会のご意見を賜りたく諮問いたします。

記

- 1、第5次小菅村総合計画（案）



〈答申〉

小総第 2 - 4 号
令和4年2月21日

小菅村長 船木 直美 様

第5次小菅村総合計画審議会
会長 佐藤 英敏

第5次小菅村総合計画（案）について（答申）

令和3年10月6日付け小総第10-1号で本審議会に諮問のあった、「第5次小菅村総合計画」の策定について、全3回の審議会を通じ審議を重ねた結果、別添第5次小菅村総合計画（案）のとおり答申します。

今後、本答申を基に、第5次小菅村総合計画が策定され、村民、行政、関係者が一体となって計画を遂行し、小菅村がより一層の発展を遂げることを切に願います。

なお、第5次小菅村総合計画（案）の推進に当たっては、下記の事項について特に配慮されることを求めます。

記

- 1、昨今の新型コロナウイルス感染拡大により、生活様式、村内の経済状況への多大な影響を受けている中で本計画期間において、今後も社会情勢の急激な変化が訪れる可能性が考えられる。そのような場合には計画期間に限らず柔軟に計画の見直しを行うようにしていただきたい。
- 2、本計画の推進に当たっては、計画策定にあたり実施された村民アンケート調査、団体ヒアリング、ワークショップ、パブリックコメントで示された住民の想いを尊重していただきたい。また今後の財政状況、社会経済情勢の動向等を十分踏まえ、村行政職員が一丸となり村民をはじめ関係者と連携を密にし、村の将来像である「みんなでつくる源流の輪 こすげ」の実現に向け着実に取り組んでいただきたい。
- 3、源流の村である本村の特長である豊かな自然、尊い歴史文化、村民の温かい心を大事にし、これらの特長をいつまでも守っていく村づくりを進めていただきたい。
- 4、本計画の趣旨及び内容を、村民にわかりやすく情報提供するとともに、理解と協力が得られるよう努めていただきたい。



第5次小菅村総合計画

令和4年3月発行

編集・発行／山梨県 小菅村

〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4698番地

TEL : 0428-87-0111

<http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/>



多 摩 源 流

小 菅 村

Kosuge Village